



大きい課題となっている。この地球温暖化とエネルギー問題や経済成長との両立可能性等、我々電気関係者の地球新時代の大きい関心事となつて来た。

話は戻るが先号にも述べておいた通り松田先生は昭和40年頃既に感覚電子工学という新分野を考えられた。最近コンピュータ情報処理分野のファジー理論は一種の人間の曖昧さを加味した理念で、より人間の判断を下せる理論であるが、既に多くの家電製品に利用されている。前述の松田先生は感覚情報電子工学は或る意味ではその先がけとも考えられる。このファジー応用の一分野は感性工学への適用であり、画像処理、医療、音楽、絵画分野等へのニーズの開

拓が進められてきている。勿論ファジーは万能ではないが、その応用分野は実に広く、これからはファジー応用の進歩と人間思考訓練との競争の場になっていくものと思われる。何れにしてもその成長には時間がかかるかも知れないが、ブームだけに終わらせず大切にしていきたいものである。

先号は期せずして健康特集になつた様で、松田先生の話、ホールインワンの小林四郎氏(昭13卒)の話と記事、パソコン趣味の珠玖泰吉氏(昭17卒)の話やストレスの話等の記事もあった。

これからの情報通信時代のテクノストレスには、所謂テクノ不安症(環境への不適者)とテクノ依存症(人間的情緒の欠落)とが

あつて、肉体的には眼の疲労や神経痛も出て来るが、精神的健康も大切である。その具体的予防策としては、作業時間と休憩時間の配分(例えば1時間の作業の10分間の休憩)照明や採光等の工夫(画面に光源等が映らぬ様に)、また適度の運動をすること等があげられる。先号に述べた珠玖氏は作業の合間にサイクリングやバードウォッチング等やつてストレスを克服している由、また何でも同氏は最近パソコン音楽分野も執念をもつてこなしており、音楽好きの家族の仲間入りが出来ようになりつつある由である。何れにしてもストレス解消の基本は生きがいと健康保持であろうと思われる。

本会員の大部分を占める現役エンジニアの皆様は、最近の経済産業社の中で益々多忙を極めておられることと思うが、これからの21世紀に向かつての90年代の高齢化社会時代は決して過労にならぬ様ウエルネス(健康の自己管理)に努力してほしいものである。出来るだけスポーツをやったり、自分の趣味をもつこと、過飲酒、砂糖入りコーヒー、たばこを控え目にすること、外食で塩分や脂肪分をとり過ぎぬこと、朝食は必ず取ること、等々ある雑誌の記事を見た。何れにしても長寿社会における人

生設計について見直していくことが大切であろうと思われる。

筆者は現在二病息災で時々体調を崩すこともあり、去る11月関西支部の家族会の琵琶湖のピアンカによる周航にもやむを得ず参加出来ず申訳なく思つている。これも若い頃のヘルスケアに無関心であつたため、お恥し次第である。次に京洛近況に触れておきたい。

昨年夏以来の気象異変で紅葉も余り冴えなかつた様で、青葉から黄櫨色そして落葉という変化、それでも洛東、洛北、洛西の紅葉の名所は相変わらずの人出であつた由、台風による暴風雨は京都では大した事もなく、落葉を早めたくらいであつた。

市営地下鉄の烏丸線も昨秋漸く北山駅(植物園の北側)迄延長されたし、御池通りの東西線も着工されている。また京都駅ビルの高層化設計等も保存と調和論争の中で話題になつている由、何れにしても京都の街づくりの記事が新聞を賑わしている。

茲で一枚のスナップを掲載させて頂く、暖秋であつても渡り鳥、ゆりかもめが例年通り加茂川の上流に飛来、野鳩と共に餌をとつたり中州に羽根を休めている。そして必らず午後3時頃には集団で舞い上がり琵琶湖方面へ帰って行く、また洛北深泥ヶ池にも例年通り鴨

迎春

一九九一年一月一日


京都大学

電気関係教室

教官一同

財団法人

関西電気保安協会

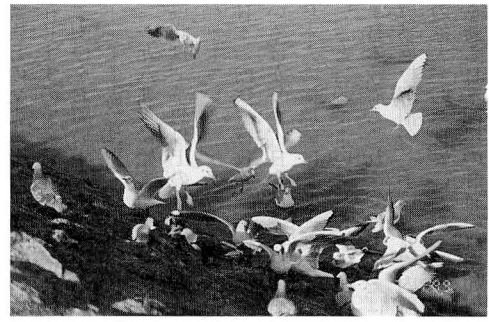
株式会社

鳥津製作所

取締役社長 西八條 實

フジテック株式会社

取締役社長 内山正太郎

シャープ株式会社



やおし鳥その他の野鳥が飛んで来ており、バードウォッチングの名所になっている。暖かい晩秋風景の一コマである。

筆者は大抵毎朝夕犬を連れて自宅附近の野路や山路を散歩しているが、次に全くの素人の拙句をご覧に入れてご想像願いたい。

○イナゴ追う犬に連れられ野路を行く。
○カサカサと落葉かけ分け路登る。
○朝霜に犬の足あと残しつつ。
以上前号に続く健康特集の続編になってしまったがご判読頂ければ幸である。

年頭所感

新年のご挨拶

東京支部長 西岡 博

新年明けましておめでとございます。洛友会の皆様には益々ご健勝にて、新春をお迎えになられたこと存じます。

洛友会も発足以来、役員の諸先生、諸先輩方のご尽力により、立派な基礎が出来、年々会員数の増加と共に順調に発展して参っております。この間、特に会報や名簿の発行等、役員や事務局の方々のご苦勞に深く感謝致しております。

終わりに会員の皆様の益々のご健勝とご発展ご多幸をお祈りすると共に、今後共本部および支部関係の一層のご支援とご協力をお願い申し上げて擱筆したい。

(二、二二、八記)



玉堂美術館、奥多摩湖へバス旅行を致しました。これからもこの良き伝統を続けていくとともに、より若い方々の積極的なご参加を願って、新しい時代に相応した同窓会に育てていきたいと存じます。

さて日本経済も民間設備投資、個人消費に支えられ、順調に推移して参りましたが、深刻な人手不足や中東情勢不安など予断を許さぬ面も出てきました。これから先行き景気は一体どうなるのでしょうか。何れにしろ戦後45年、日本経済は大変な発展を遂げてきました。私達が京都で学生生活を終戦直後の食糧難時代とはすっかり様変わりして、今やアメ

ニティの時代といわれる様になってきました。私は長年照明関係の仕事に従事して参りましたが、最初の頃の蛍光灯で世の中を明るくしようという時代から、省エネルギーの時代を経て、快適環境の創造、アメニティの追求といわれる様になってきました。高齢化社会を迎えて、明るくすることは勿論ですが、ちらつきやまぶしさがなく、見やすく目が疲れない快適な照明環境作りが要望されます。住いの照明も、省エネで明るい日本独自の環形蛍光灯吊下器具一辺倒から、一室多灯でその時々々の生活シーンに合わせて照明で雰囲気演出しようという様になってきました。新光源の開発、点灯回路の電子化といったハード面の開発と見え方や照明演出手法といったソフト面の研究から、豊かな楽しい、ゆとりある生活環境をつくり出していこうという時代になってきたのでしよう。これからも立派な後輩諸君が続々と育ち、優れた研究と独創的な開発を進めて、より豊かな社会を築き上げていってくださる事を期待したいと思います。

末筆ながら洛友会の益々のご発展と、先生方、会員の皆様方のご活躍と、ご家族皆様方のご健康とご多幸をお祈りして新年のご挨拶と致します。

松下電気産業 株式会社

千代田化工建設 株式会社

高周波熱錬 株式会社

取締役社長 水島 克久

日新電機株式会社

社長 小松 新

株式 会社 エスシーシー

取締役社長 松尾 三郎

宇宙技術開発 株式会社

取締役会長 松尾 三郎

新春雑感

関西支部長 大嶋 幸一 (昭和19卒)

新年お目出度うございます。会員の皆様には益々ご健勝のことと心よりお喜び申し上げます。とりわけ松田長三郎先生には満97歳を迎えられ、益々お元気の由、誠にお目出度い限りでございます。

私の中学、京都府立二中の第10回、実に明治44年のご卒業ですから、ご播生の程敬服の至りです。

洛友会の隆盛と共に関西支部も会員数三三〇名の大世帯となり、支部役員一同会員相互の、またご家族との交流に微力を盡したいと存じますので会員の皆様の一層のご支援をお願いする次第です。

教育について

一九八九年に始まった日米構造協議は、予想以上の重大な問題に発展している。アメリカの要求は日本の内政や行政の細部に亘っているばかりか、日本社会の慣習や日本人の倫理感にまで入り込んでいると言つてよい。

日本政府もこれを受けて例えば貿易摩擦解消の手段として内需の拡大、即ち世界に冠たる貯蓄率を誇る日本国民の財布の紐を如何

に緩めさせるかに腐心することとなつてゐる。

しかし市民を蓄財へ駆り立てるプレッシャーは何かを考える時、まだ老後対策までの余力はなく、持ち家と子弟教育のためのコスト圧力が、消費を抑えていると見る

もつとも前者については、近年の地価暴騰により、諦めによる圧力の解消で、思いもかけぬ高級品消費指向が現れたとも見られているが、後者の教育コスト圧力は、依然として一世帯当たり一千万円から二千万円を暗に求めているのが現状であらう。

先日、清水建設(株)顧問本城正八郎氏の「軍歌『戦友』と留學生」と題する歯切れの良い小文に、氏が指導されたイラクの建築学研修生シヤビリ君の「日本研究」に託して、日本における教育史の一端を披露されていた。古来日本人は勉学に金の掛るのを当然視し、貧乏で金のないことが勉学に励む動機にすらなつた。という江戸、戦

国にもさかのぼる民族意識の根元に触れられているのに感銘を受けた。その要点をかいつまんでご紹介すると、

まずシヤビリ君24才は、古代チ

ギリス・ユーフラテス河流域にて世界に冠たる文化を築いた、いしへの栄光をよみがえらせるのが念願である。イラクの指導者はほとんどが西欧留学を指向するに對し、敢えて日本を選んだのは、明治維新後の発展、特に当時世界最強と言われたロシアを破り、戦後は原爆の廃墟から数十年で経済大国にのし上がった奇跡ともいふべき秘密を学ぶことであつた。

彼はカラオケで覚えた戦友の歌詞に愕然となつた。80年前の一兵卒が互いに手紙を見せ合い、亡き戦友の両親に便りする、その教育普及率の高さ(男子98%)当時ロシア兵の文盲率は90%以上と言われた。彼は日本の勝因は「教育」と直感し教育史研究の虜になつた。

その調査の結果、明治五年の太政官布達により作られたのが小学校だけでも明治六年一万五千校、先生数二万六千人、どこからこれだけ人材が集まるのか、幕末の藩校二百七十校、武士は言うにおよばず江戸町民は80%が読み書きができ、江戸には貸本屋が六百軒。矢矧川の浮浪児がどこで政治、経済、軍事を学んだのか。彼の結論は、秘密を解く鍵は維新後百年にあるのではなく、はるか遠くで深

い日本の教育のバックグラウンドにあつた、ということである。受験地獄は別として、教育に金を惜しまない風習は綿々として受け継がれて来ている。資源を持たない我が国の科学技術立国を支えているのは、何と言っても教育レベルの高さと底辺の広さであらう。膨大な内需を呼ぶことにならうが、その風潮が将来に禍根を残すことにもなりかねない。

近頃の大学生は、勉強をしなかつた、本を読まなくなつたとレベル低下を懸念する声が強い。それは観念の差で、全体としては確実に向上していると思う。十八才から二十二・三才までの約八百万人中、かつては百五十万人を大学生と呼んでいた。今は五百万人を大学生と呼ぶ様になつたのである。勉強をしない人、本を読まない人をも大学生と呼ぶ様になつただけで、かつての百五十万人のレベルと今の五百万人のレベルを比較することに無理がある。かつては大学生と呼ばれなかつた百五十万人に続く三百五十万人と、今の勉強をしない大学生を含む三百五十万人を比較すると、親の教育投資のお陰で確実にレベルは高まつているのではなからうか。

身を削つて貯えた教育資金が地獄の通行料として浪費されるので

はなく、効率よく人材育成に活用される教育制度が一日も早く確立される日の来ることを切望する次第です。

迎春

一九九一年一月一日

先端技術で地域に奉仕

四国計測工業株式会社

取締役社長 富田 盛夫

株式会社 電気評論社

財団法人

近畿地方発明センター

財団法人

応用科学研究所

激動の新春を迎えて

中部支部長 大野 彰

新年明けましておめでとうござ
います。洛友会並びに電気系各學
科のご隆盛を心からお祝い申し上
げます。
平成元年は天皇崩御に始まり、
ベルリンの壁撤去に至る激動の年
といわれました。
しかし平成2年はそれを上まわ
る激しい変化の年でありました。

しかもそれは輝かしい涌き上るよ
うな明るい雰囲気ではなく、株安、
円安、債権安のトリプル安に加え、
金利高、原油高が追打ちをかけ、
更にイラクのクエート進攻によっ
て止めを刺された感をうけます。
日本経済の行き過ぎを正し、構造
的改革を迫るものでありましょ
う。

平成3年はこうした大きな課題
を背負つてのスタートとなります
が日本人の叡智をもつてすれば、
必ずや見事に乗り切ることであり
ましょう。
「日本の世紀」と言われる21世
紀は、一歩一歩間近に迫つて参り
ます。国際化・国際協力を一層進
め、名実共に世界をリードする国
となり得るよう、しっかりと足元
を見定める年であらうと存じま
す。

「中部」には大きな夢がありま
す。中部国際新空港、時速500軒を
目指すリニアモーターカー、第2
東名・名神高速道路の建設構想は
着々とタイムテーブルに乗りつつ

あります。これ等のおよぼすイン
パクトは計り知れないものがあり、
中部地区の構造を一変させるのであ
りましょう。愛知県知事はこれを
称して「三点セット」と言つてお
られます。そしてまた、紀元二〇
〇五年には世界万国博覧会を名古
屋東部丘陵地帯に招へいすべく、
ノロシをあげました。
洛友会々員の皆様方、電気系各
学科学生諸士ご活躍の場は大いに
拡大されるものと期待しておりま
す。是非とも中部地区に高いご関
心をお寄せ戴きますようお願い申
し上げ、新年のご挨拶といたしま
す。

一方、二十世紀に開花した電子
制御技術はさらに高度化され、世
界のすみずみまで拡大される通信
情報システムや高速の輸送システ
ムは、時間的な距離を一層短縮し、
また、人工頭脳は言葉の障害を克
服し、国際化は一段と進むものと
思われます。

新年のご挨拶

九州支部長 上田 保之

明けましてお目出とうございま
す。九州の地から輝かしい新春の
お喜びを申しあげます。

昨年、国内では厳しい経済環境
のなかによりながら、景気は後退
することなく、政情も安定してお
りました。そのなかで、古式ゆか
しい「即位の礼」と「大嘗祭」、

盛会だった「国際花と緑の博覧会」
日本初の「宇宙飛行士」と明るい
ニュースが多い一年でした。一方
海外では、東西ドイツの統合に象
徴される社会主義体制の崩壊、新
保守主義の旗頭であったサッチ
ャー首相の退陣、一触即発の中東
湾岸危機と激動の一年でありまし

た。そして新しい年を迎え、二十
一世紀への階段をまた一つ昇つた
ようであります。
日本最初の宇宙飛行士となった
秋山豊寛さんは、やはり青かった
地球を眺めながら、戦争も国境も
ない地球を二十一世紀には実現し
たいと力説されました。また、宇
宙から地球の映像を送りながら、
環境汚染の影響かも知れないと、
地表面の色彩の変化を細かく説明
し、汚れない地球を子々孫々に
伝えたいとの願望を表明されまし
た。宇宙から地球を注視しての言
葉だけに重みがあります。
二十一世紀はどんな時代となる

のでしょうか。電気学会が創立百
周年事業の一つとして実施された
「百年後の電気と文化」と題した
懸賞論文（電気学会雑誌、昭和63
年2月号）六編をジャーナリスト
の秋山さんの宇宙意識でもう一度
読み直してみました。
二十一世紀には多岐にわたつて
開花すると思われる超電導などの
新素材、食品合成などのバイオ技
術、核融合、宇宙発電などのエネ
ルギー技術は、人工増加に伴う資
源枯渇、食糧危機を解決し、国際
紛争の火種を解消するとともに環
境汚染のない自然との調和を取り
戻すことになるでしょう。

このように見えて来ますと「戦争
のない」「国境のない」「環境汚染
のない」地球を二十一世紀に実現
するための技術開発の将来展望が、
前述の論文の主要部分を占め、ジ
ャーナリストと電気技術者の未来
にかける夢は奇しくも同じことに
なります。
二十一世紀はこれまでの物質文
明偏重が見直され、心のゆとり、
豊かさ、快適さを求める人間性重
視の時代となると予想する人は多
いようですが、換言すると政治も、
経済も社会も大きく変貌する時代
と言えらると思います。昨年は二十
一世紀の序曲ではないかと思われ
るニュースが多かつたようです。
中東の湾岸危機が平和裡に解決
することを祈念しつつ、新年のご
挨拶といたします。



新春雑感

北海道支部長 池内義則 (昭21卒)

洛友会々員の皆さん、謹んで新年のお祝詞を申し上げます。併せて會員のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

北海道支部の近況については、昨年10月発行の洛友会々報に、芝山氏が支部総会記事として報告しました。芝山氏(昭28卒)は当支部発足当初よりの會員で、今日まで支部活動の中心となつて活躍して戴いております。元來、北海道支部は昭和29年8月に故加藤義信先生をお迎えしたのを契機として、わずか17名の會員で発足したのが始まりであります。その中心は北海道電力(株)の方々であり、故橋本篤四郎氏(昭2卒)の後を継いで、芝山氏が現在なお支部のお世話をされております。芝山氏は現在、三菱重工北海道支社勤務。北海道電力(株)には現在も谷村実(昭31卒) 中山道夫(昭33卒) 土橋多一郎(昭34卒)の三氏が在籍、しかも中山氏は洛友会北海道支部から初の北電取締役。谷村氏も監査役。土橋氏は工務部長という、い

ずれも会社の重要なポストで活躍され、御本人達の名誉は勿論、支部にとつても誠に喜ばしく、かつ心強いことでもあります。

北海道支部では、これまで多くの方が転勤によつて入会されませんが、短期間で転出される方も多く、固定した支部會員が極めて少ないのが悩みのタネでありました。それはそれで、一時的にせよ、新風を感じ、交流を深める楽しみがありました。その中で昨年入会された西村克己氏(講昭12卒)は長年住みなれた京都のお住居を手離し、札幌永住のために移住されたことは、支部として大変有難く、貴重な支部會員として歓迎しております。

また今年3月卒業予定の京大電気工科学学生が北海道電力に入社されるといふニュースがあり、また一人固定支部會員が増えることを寄せています。北電では今年2名の京大生が入社予定で、その中の一人が洛友会々員として迎えられる

れるようです。前記土橋氏の北電入社以來、実に30年振りのことでもあります。願わくは今後引き続き北海道への就職学生を多数送ってくださるよう、母校の先生方にお願ひ申し上げます。

次に私事で恐縮ですが、私は昭和22年に北海道に渡り(最初は船で舞鶴から小樽へ)以來43年間札幌に住んでいます。京都はわずか3年の学生生活を過ごしたただけですが、京都に学んだというだけで常に無上の幸福感にひたることが出来ます。私の学生時代は、学徒出陣、勤勞動員、敗戦という戦中戦後の最も困窮した時期で、楽しい憶い出などないわけですが、それでも、あるいはそれだから今になって京都にひかれ、京都にあこがれる気持ちが強いのだと思えます。

昭和61年停年退職してからは出来るだけ機会を作つて京都を訪れることにしています。要するに学生時代に見えなかつたもの、見落としたものを一生懸命探し歩いているわけです。昨年の会報150号に掲載された大嶋関西支部長の「百観音霊場を巡拝して」にはおおよびませんが、出来るだけ京都の風物に接したいと思っています。「退職後あなたは どうしていますか」とよく聞かれます。私は「水彩画を描くこととブラリふれ合い

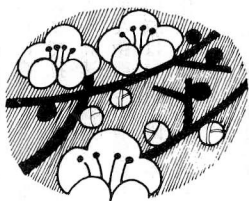


二人旅(妻と)です」と答えます。昨年は妻にせがまれて、7月13日から26日までJRのフルムーン切符で京都へ参りました。目的は祇園祭の見学でしたが、17日神幸祭の後には姫路、鳥取、松江、安來、倉敷、福山、鞆など足の向くまま、氣の向くままに旅行してきました。祇園祭は初めて見るので修学旅行の子供のように胸をわくわくさせ、宵々祭、宵祭、神幸祭と三日間見物に出掛けました。テレビや絵葉書で見るとは大違い、雰囲気は圧倒されて帰ってきました。見物人の中には関東から毎年来ていますという人があつて驚きました。今回本文を書くに当たつて会報を見ていたら昭和48年8月と10月の第81号、第82号に当時関西

電気保安協会の中沼保三氏(昭10卒)が祇園祭のお稚児さんをつとめられ、祇園祭の詳細な記事を書いておられるのを読んで二度びっくりしました。「百聞は一見に如かず」と申しますが、人込みにもまれて山鉦を眺め、しめ縄切りや辻廻し、くじ改めなどを眼のあたり見たので、中沼氏の記事に非常に感銘を受けました。

私はこれまで旅行中は写真を撮ることで印象を残そうとしてきましたが中々満足な写真ができません。昨年7月の旅行には簡単な水彩道具を持って行き、初めて水彩画に印象を描くことを試みました。自分の心覚えのため描いたものですが高野川の絵を出させて頂きました。この風景は前々から一度絵にしてみたいと思つていたところでした。

退職後、気ままな旅行と趣味の写生を楽しんでいる今日この頃の、生活の一端をご披露してご挨拶にかえさせていただきます。



新春雑感

北陸支部長 野村精二

明けましておめでと〜うございませす。北陸の富山から松田会長様はじめ洛友会の皆様は新年のお喜びを申しあげます。

会長の松田先生はもう97歳の新春を迎えられたのではないかと思います。洛友会々報で大谷先生の文章の中で、何時も先生の消息にふれられています。私等の学生の時の、鳥養学長、岡本、林、加藤、阿部各教授の方々は既に亡くなられ、ひとり松田先生が元気でおられることは私等の年配者の励みにもなり、百歳までも健在であられることを祈っております。

私は昭和24年の卒業生で、卒業以来もう42年にもなるわけで、何時の間にか洛友会名簿では始めの方に記載される年齢になりました。24年卒は戦後初めての入学でして、陸士や海兵出身者も多く、またそれまでの入学者のように旧制高校卒が主力であったのと違い旧工専卒も多く、我々を称して「ポツダム入学」と言う人もあった由です。年齢も最高と最低では五〜六才の違いがあり、旧軍の将校だった人もいて異色のクラスだったように

思います。

私もその一人で東京物理学校卒(現理科大)陸軍予科士官学校教官(但し普通科の物理学の教官)陸軍技術大尉で終戦、子供が二人もいるという新人生で最年長なるが故に、最初のクラス委員に選ばれたという前歴があります。それ故に毎年開くクラス会では年長の故をもつて乾杯の音頭をとらせられるのが恒例となっています。年少組には今をときめく関西電力の森井社長、日立製作所の三浦副社長らがおられ、我々クラスの誇りでもあります。

私は卒業と同時に、亡父も創業者の一人として関係していた現在の会社に入りました。北陸電気工業(株)と言いつつ戦時中の昭和18年に富山県大久保町(現在町村合併で大沢野町)で創業し軍の管理工場として無線機器用のカーボン抵抗器を作りしました。戦後は民需に転換し私の入社時は従業員が100人に満たぬ町工場でしたが電々公社の認定工場だったことが唯一の取柄で細々と搬送用電話関係のセットメーカーの注文で操業してました。その頃の日本の電子産業のレ

ベルは戦終わって、ふたを開けてみると「欧米に比べて20年遅れている。これに追いつくのは大変なことだ」ということを確か、阿部先生からだったと思います。先生からの講義の冒頭で言われたことを今でも鮮明に頭に残っています。当社も電子産業の端くれにいたわけですが当時の日本の電子産業のレベルはその程度だったわけです。その後の日本の電子産業の発展は皆様ご存知の如く素晴らしいものがあり世界のトップの座にあります。当社もその流れの中で落伍することもなく流れに乗って今日まで参りました。現在東京一部市場にも上場し電子部品メーカーの中堅クラスとして海外にも展開しています。この40余年を振り返りかえってみますと感無量のものがあります。

北陸は石川・福井・富山の三県

電気系教室だより

前田憲一名誉教授

新学士院会員に

昨年12月12日の学士院総会において、前田憲一名誉教授が後述の功績により新学士院会員に選出さ

で構成されていますが各県それぞれに特色があり、近年「北陸は一つ」という相言葉で特に産業経済面で地域として、まとまった活動が期待されていますが、今のところは横のつながりが充分とはいえないが徐々にその機運がかもしだされつつあるといえます。北陸には電子電機関係の企業としては地元資本によるものは大きな企業はありません。進出企業としてはここ十数年の間に大企業も工場進出してきましたが大部分はパーツメーカーでセットメーカーは非常に少ない。そんなことで洛友会々員がまとまっておられるのは北陸電力だけで、あとは学校関係とか北陸進出に伴って転入された方々で生え抜きの方が少ないのが現状です。我々クラスの会社では京大卒の新入社員は高嶺の花というのが実情で、現代の学生を引きつけ

る魅力がないからだと言われればそれまでですが、どうにかならぬものかと思っています。北陸といえは雪、雪は冷たくて寒くて暗いもの、それ故に非活動的な停滞した社会のようにイメージする人が多いが、確かに三八豪雪までは時として交通が遮断されたこともありましたが、この時を境にして行政関係を中心として雪対策が進み除雪が機械化され、克雪そして利雪を考える時代に入りました。雪が北陸の経済発展の障害でなくなる時代が変わりつつあります。「雪が降るから住みたい」という人も出てきて東京から富山に居を移した人もあります。北陸の経済も更に発展して新会員が喜んで赴任できる環境が早くできることを願っている者です。新年にあたって所感の一端を述べさせていただきました。

れました。当電気系教室としては鳥養利三郎元総長以来のことで、これほど慶ばしいことはありません。ここに洛友会々員諸氏にお知らせ致します。

前田憲一名誉教授は、電離層物理、電離層電波伝搬、通信方式、情報理論など広く電気通信工学の分野において顕著な業績を挙げられ、学術上の進歩、後進の育成に著しく貢献をされました。

具体的には、電離層中を伝搬する電波の通路と減衰量の計算手法の開発により、季節、昼夜、距離の条件に対して短波無線通信回線的设计を初めて可能にされました。また電離層電子密度の高度、日変化、緯度・経度変化の研究から、中低緯度の電離層F層領域が地球の磁界の影響を受け、いわゆる「地磁気歪曲」の現象が現れることを世界で初めて発見せられ、後にそれ



を理論的にも明らかにしておられます。

一方、パルス位相、幅、数変調方式を考案、周波数変調方式の特性の解明なども手掛けられ、また計算機による音声情報処理研究の基礎を築かれました。

また昭和32、33年の国際地球観測年（IGY）以来、我が国のロケットによる宇宙空間観測計画と組織作りの中心の一人として、人工衛星観測の始まるまで終始開拓者の貢献をされました。

電気系教室主任

教授（電気） 岡田隆夫

教授（電2） 長尾 真

教授（電子） 石川順三

教官の異動

次のような異動がありました。

竹田美和

平成2年11月16日、佐々木研講師より同助教授に昇任。

（昭和47年電子工学科卒）

木嶋 昭教授 退官記念講演・記念パーティのご案内

一、退官記念講演（電気系教室主催）

日時 平成3年4月27日(土) 午後2時30分より
場所 新・都ホテル 京都駅八条口
TEL (〇七五) 六六一七七一

二、記念パーティ（木嶋先生退官記念会主催）

日時 平成3年4月27日(土) 午後5時より
場所 新・都ホテル

（問い合わせ先）

〒606 京都市左京区吉田本町

京都大学工学部電気系教室

木嶋 昭先生退官記念会世話人

市川 哲
奥村浩士

TEL (〇七五) 七五三一五三三〇・五三三二
FAX (〇七五) 七五一一一五七六

林 宗明教授 退官記念講演・記念パーティのご案内

一、退官記念講演（電気系教室主催）

日時 平成3年6月29日(土) 午後4時より
場所 都ホテル 於3Fコスモスホール
〒605 京都市東山区蹴上
TEL (〇七五) 七七一七一一

二、記念パーティ（林先生退官記念会主催）

日時 平成3年6月29日(土) 午後5時30分より
場所 都ホテル 於2F瑞穂の間

（問い合わせ先）

〒606 京都市左京区吉田本町

京都大学工学部電気系教室

原 武久
垣本直人

TEL (〇七五) 七五三一五二八九・五二七七
FAX (〇七五) 七五一一一五七六

電気系教室懇話会 秋の講演会

電気系教室懇話会、秋の講演会が、去る11月10日（土）午後8時に開催されました。この講演会は、各分野でご活躍の教室の先輩に講演をして戴くとともに、それに続くビアパーティで、諸先輩と教室職員・学生の絆をより一層深めるために、毎年開かれています。

高木俊宜氏（イオン工学センター ㈱副社長、京都大学名誉教授、昭和22年卒）

長崎昌司氏（住友電気工業㈱常務取締役、昭和33年卒）

平栗俊男氏（富士通㈱常務取締役、昭和32年卒）

の三人の先輩の方々にご講演をお願いしました。

第一部の講演会は、30名を越える多数の先輩各位が参加され、教職員、学生を含めて、午後1時から



ら電気総合館中講義室において開催されました。初めに電気工学主任の岡田教授の挨拶があり、引き続き電気工学第二主任の長尾教授より本年度の電気系教室学生の就職状況について報告がありました。次に来春卒業予定の修士2回生（桑原、石丸、福田君）と4回生（栗原君）より就職先決定に関してそれぞれの諸君の体験談を聞きました。

続いて先輩のご講演に移り、高木俊宜氏から「インテリジェント材料を考える」のお話を伺いました。電子材料とデバイスの融合した未来の電子工学が進むべき形としてのインテリジェント材料について、ビデオを使いながら分かりやすく講演してくださいました。

次に長崎昌司氏から「電力技術と30年の会社生活」と称して、氏の会社選択のお話、入社から現在まで電力技術にどのように関わり、またその中でどのような考え方で会社生活を送られてきたかについてお話を伺いました。

最後に平栗俊男氏から、「最近のコンピュータ技術動向」を講演してくださいました。初期のコンピュータから現在の超高速、超大型のコンピュータにいたる歴史を含めて、最近のコンピュータの技術動向を長年この仕事に携わってこられたご経験を含めてお話戴き



今年の家族見学会は申込みが殺到しました。4月に琵琶湖に就航

支部だより

平成2年度関西支部

家族同伴見学会報告

平成2年11月11日(日)

ました。
懇話会第二部のビアパーティは、午後5時半から生協北部食堂二階喫茶「ほくと」で開かれました。長尾教授の挨拶の後、日新電機株の大嶋幸一氏の乾杯のご発声で行いました。参加者は100名を越え、ご講演くださった先輩や関西地区から来て戴いた諸先輩を囲みなが

ら、あちこちで会話に花が咲き盛る。最後に、この懇話会行事のために、ご多忙にもかかわらずご講演を快くお引受けくださった三人のご講演者の方々、ご出席いただきました諸先輩の方々に、電気系教室から厚くお礼申し上げます。

したばかりの新造豪華レジャー客船「ビアンカ」を借り切って一日クルージングが、船の旅はバスと違って乗り降りが必要で坂道を歩くこともなく、ゆつくり談笑できるうえ、イタリア料理と組合せての地中海風クルージングが楽しめるということで人気を集めたようです。

当初、申込みが20人と定員200人を大巾に超過したため一部の方々には食事の面でご迷惑をおかけしましたが無事実行の運びとなりました。

前々日まで秋には珍しい台風で大荒れでしたが、会員のご精進のせいで、当日は文字通り台風一過のさわやかな秋晴れで少し肌寒さを感じるものの絶好の行楽日和で予定通り浜大津港を出港しました。

大嶋支部長のご挨拶の後、2班に分かれて、初めは第1班がレストランで琵琶湖ホテルのシェフが



腕をふるったイタリア風グルメリ舌鼓を打ち、第2班はラウンジでイタリアンショーで歌と演奏を楽しんだり、紺碧の湖面を行き交う船や、紅葉の比良の山なみを眺めたりし、ご家族やお友達同志で楽

関西洛友会

第54回ゴルフ競技会報告

第54回洛友会関西支部ゴルフ競技会は、平成2年9月24日(月)武庫之台ゴルフ場にて開催された。

参加者は、大嶋支部長をはじめ30人で、会計幹事大西一彦氏(46年卒)がネット62のハイスコアで優勝した。大西氏はゴルフ歴はわ

しく過ごされました。
第1班の食事が終る13時少し前に船が近江舞子に着岸。湖畔を散策し、ためらい勝ちな紅葉に秋の風情を楽しんで、約30分で帰船、乗船間もなく第2班が食卓につきました。今年は食事を座席指定と、できるだけご家族は同じテーブルに、同級生は近くのテーブルとさせていただいたため、両班とも熱気を感じる程に話が弾んでいました。

食事の後は皆様お待ち兼ね、全員参加の福引きクイズ大会です。方法は○×クイズで全員○×カードを持ち、出題ごとに○か×を出し、正解者だけが残り、次々と問題に挑戦して行くという方式です。西台さんの司会で進められ順調に9問、10問と進み気が付いてみる

と残ったのは殆どが小学生の子供さん達でした。結構難しい問題だったので、あとは家族グルミの懇親大会の様相となり、また周りの敗退組も問題に首をかしげたり、正解にドットどよめいたりで大いに盛り上がり、皆様時のたつのを忘れられたようでした。

終りに松田長三郎先生作詞、ご作曲の「洛友会の歌」を西台さんのタクトで合唱、東松副支部長の閉会のご挨拶を結びとして3時40分浜大津港にて解散、無事家族見学会を終えました。

全員集合形のデイ、クルージングは素晴らしい秋空のもと、楽しい一日を過ごしていただくことができ、私も世話役の苦労も感じました。ご協力有難うございました。(松井捨和記)

の結果か、なんとアンダーパーが4人というハイレベルな競技会であった。ただし、最下位にはクロス179という参加者もいるので、あまり腕に自信がない方でも安心して参加してください。

なお連絡は関西電力(株) Ⅷ06-441-8821(内線二五五四) 美濃由明(56年卒)まで。
次の第55回は、平成3年5月12日(日)に開催される予定、多数のご参加をお願いします。(大田垣53卒)

たが晩秋の箱根は十二分に堪能できました。残念だったのは前述のとおり連日の暖かさのためか毎年のように、箱根の山々、全山紅に映えるといった景色にはお眼にかかれなかった事と週末は宿がとりにくいというので平日を選んだため計画の当初は参加をご希望だった方の中に、いざ日程が決まる頃

になると出発日が帰る日が何れかに他の用事と重なり旅行にいけないといった訳で参加者が8〜9名と考えていたのが5名に減った事、これらは誠に残念でした。
 次回は準備万端一層工夫し多くの方々にご参加願えるように致したいと考えております。
 (杉本省一 昭和11年卒)

洛友二一会の

ことども

二一会は昭和21年9月 京大電気工学科卒業のクラス会の名称です。卒業後、既に44年、関西では、早くから毎年1回以上の懇親会やゴルフ会などが比較的小規模に行われていました。
 昭和51年に30周年の記念クラス会が京都で行われ(昭和52年1月会報98号に報告)昭和61年には40周年の記念クラス会と見学会が実施されました。(昭和62年7月会報140号に報告してあるが、この時のタイトルが「洛友二一會報告」と誤って印刷されている)

二一會ではその後、夫人同伴の旅行会をやってはどうかということになり、昭和63年から実際に旅行会をすることになりました。
 昭和63年第1回旅行会
 一、日時 昭和63年10月22日、24日
 二、場所 青森↓蕨温泉↓酸ヶ湯↓八甲田山↓奥入瀬川↓十和田湖↓八幡平 姫の湯ホテル
 三、幹事 大川・小川の両氏
 特にクラスの阿部鐵郎氏には全面的にお世話になりました

平成2年6月2日(土) 昭和35年度電気電子工学科卒業生の同窓会が開催されました。今年度は我々の卒業後30年に当たると言う記念すべき年で、卒業生総数77名の内39名の出席を得ました。

た。
 平成元年第2回旅行会
 一、日時 平成1年11月3日、5日
 二、場所 長崎↓雲仙↓島原↓三角↓熊本↓阿蘇↓熊本
 三、幹事 増岡・杉村の両氏
 筆者は1・2回参加できなかったが折角の企画で実施された旅行会について本会会報に報告されていないので敢えて記録させていただきます。
 平成2年第3回旅行会
 一、日時 平成2年10月19日、21日

二、場所 宇都宮↓日光↓中禅寺湖↓鬼怒川温泉↓会津若松↓磐梯高原↓裏磐梯↓吾妻山↓福島
 三、幹事 藤原・梅村・金田・武田・原田の5氏
 それに古河電工(株)会長日下部氏および東北発電工業(株)常務現洛友会東北支部長三上氏の説明があった。
 尚、今回の旅行会には生存クラス員49名中20名の参加者があり、7人の奥さんを含めて総勢27名の旅行会でありました。(写真)
 3日間の日程中終始、秋晴れの好天に恵まれ和氣藹々とした素晴らしい旅でした。
 (文責 池内義則21年卒)

昭和35年度 卒業生同窓会便り

当日は午後3時、昔懐かしい銀杏の木と赤レンガの門がモダンな建物にマッチして保存されている電気電子工学科教室の前に参集しました。同窓生の一入である中島先生の案内で教室の中や新しい実験

室などを見学させて頂きました。我々の時代とは打って変わった素晴らしい設備や内装に過ぎない時の長さを今更ながら感じさせられた学内ツアーでした。
 この後、イオン工学実験施設長の山田先生の御好意でイオン即ち荷電粒子を種々コントロールすることにより従来にはない材料や薄膜を形成すると言った最先端技術の説明および、それらの設備の見学をさせて頂きました。山田先生の熱心な解説を受けながら久方振り、全員生徒に戻ったような気分





になって新技術を勉強しました。
懇親会は池上(淳)先生、近藤先生、林先生、板谷先生の御出席を得て鴨川辺りは鮎鶴の床で行われました。鴨川のせせらぎを耳に暮れ泥む東山の景色を愛でながら積もる話に花を咲かせました。夜の更け行くまま、全員肩を組んで三高寮歌大合唱の内、名残りを惜

去る7月中旬大阪に行く用件があったので、その折、電気クラブに於ける十四日会(拡大)の昼食会に出席した。
出席者は私ども4名(6月は3名の由)幹事の口羽氏は病欠欠席で寂しかった。
これではお世話を願っている関西電力の方にも心苦しく申し訳ない。一応この事を口羽氏に報告して今後の事を再考せねばならないと思いつつ、お見舞いにも行けず居る間に、9月1日88才にて死去

会員寄稿

口羽玉人氏を偲んで

大正15年卒 田中卓次

されたとの通知を受け驚き、且つ申訳けないことであった。
ここに謹んでお悔み申し上げます。私は大学では口羽氏の1年後輩である。高校も別なので、学生時代も卒業後も面識は無かった。知り合ったのは昭和36年熱海に於ける夫婦同伴の第1回全国的十四日会でした。以来家族とも親交を頂いている。
一本松、小宮両氏の東京移住後は木津氏と共に、木津氏亡き後は今日まで独りで十四日会幹事を引

しみつつ楽しくお開きとなりました。
翌3日(日)はゴルフコース組、観光コース組に分かれて、更に懇親を深めました。ゴルフ組は名神竜王カントリー倶楽部で4組が熱戦を繰り広げる一方、観光組は学

生時代行つてるようで滅多に行っていないと言う保津川下りを楽しみました。各コースのメンバー全員青空に映える新緑の下、大いに英気を養い次の再会を約して帰路に就きました。
幹事 鴨川、藤田、辻本

き受けて来られた。
この間に数回私が幹事代行を引き受けた時は前以って現地に同行して下調べなど、良き助言を頂いたものである。
昨年度(平成元年)の第29回全国的十四日会は京都で『保津川下り』をおこなった。かくの如く長年続行されているのは、専ら口羽氏の尽力のお陰である。
本年度は静岡県の興津で開催の予定であったが口羽氏の病気で、この幹事代行を私に依頼された。私も都合が悪くお引き受けできず、来年に延期することになった。本当に申訳けないことでした。
全国的十四日会(大正14年15年卒)は会員減少で解散の運命にあることは止むを得ないが、大阪に於ける拡大十四日会(大正12年より昭和9年卒まで)も現状のままでは年々消滅することは必至である。
口羽氏の尽力で現在まで続行されたものが消滅することは誠に残念である。再拡大するか、再考して昼食会が続行されることを望んでいる。これが実現すれば口羽氏に対しても良き供養になることと思う。私は住居的、また年令的に常時出席不可能であるが、口羽氏を偲びつつ本文を書いた。



計報

大13	水谷量一	元・7・
大14	口羽玉人	2・9・1
昭2	山田治	2・10・31
昭9	小倉祐三	2・4・2
昭10	城戸道生	2・7・25
昭10	佐野一雄	2・9・7
昭10	米林外四男	2・10・8
昭12	河合泰治	2・8・27
昭15	井上大助	元・7・23
昭17	鍛冶幸悦	2・2・10
昭22	吉川哲夫	2・10・31
昭17	高橋修	
昭22	松本忠孝	2・7・16
昭23	清水武郎	七年前
昭26	津田勇	2・6・4

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。